

拒否権のパワー

国連安保理で常任理事国と非常任理事国の投票力格差は？



保険研究部 主席研究員 篠原 拓也
tshino@nli-research.co.jp



しのはらたくや
92年日本生命保険相互会社入社、14年ニッセイ基礎研究所
日本アクチュアリー会正会員
主な著書に「できる人は統計思考で判断する：
「自分の頭で考える力」がつく35のレッスン」

社会では、さまざまな会議で議決が行われる。代表的なものは、国際連合(国連)だ。その中でも、とくに安全保障理事会(安保理)は、各種制裁措置の決定などを審議する機関として重要である。じつは、国連の他の機関は、加盟国に対して勧告しかできない。国連憲章のもとで、加盟国に実施の義務づけを伴う決定を行う権限は、安保理だけが有している。その議決についてみてみよう。

◇ 常任理事国は拒否権を持っている

安保理の議決は、全15カ国中9カ国以上が賛成した場合に議案が可決・成立となる仕組みだ。重要問題である実質事項の議決では、常任理事国のうち1カ国でも反対すると議案は成立しない。これは、常任理事国が持つ拒否権といわれる。

この拒否権があるために、これまでさまざまな議案が否決されてきた。大国の利害の不一致が、安保理の機能不全を引き起こしてきたと指摘されるゆえんだ。

拒否権にはものすごいパワーがあることは直感的にもわかる。実際に、常任理事国は、他の理事国14カ国がすべて賛成している議案であっても、拒否権の発動により不成立にもっていける。

◇ 投票力を示す指数

では、拒否権には、実際にどれくらいのパワーがあるのか?具体的に数字で表したい。ここで、よく使われるのが、会議での採決や投票で各投票者の投票力を表示する、「シャープレイ=シュービック指数」という指標だ。これは、アメリカの経済学者である、シャープレイ氏とシュービック氏が開発した指数だ。ゲーム理論の中では、協力ゲームと呼ばれるものの分析に出てくる。

議決の安定性や、投票力の分析などに用いられる指標だ。

◇ 指数の考え方は意外と簡単

この指数の考え方は、それほど難しくもない。5人が投票して、過半数で可決・成立となる議決を例にみていこう。

投票者は、ある議案に順番に賛成票を投じていくとする。まず、このような投票順が何通りあるか、計算してみる。これは、5の階乗(5!) = 120通り。つぎに、ある投票者が投票する前には成立しておらず、その投票者が投票したことによって成立する、という投票順の個数を数えてみる。3人目が賛成票を投じた段階で過半数となるので3人目の投票者となる投票順の数で、それぞれ24通りずつだ。そして、この2つの投票順の数を割り算する。24 ÷ 120 = 0.2で、どの投票者も5分の1ずつ投票力を持つことになる。

◇ 安保理での投票力を計算すると…

それでは、この指数を使って、国連安保理の常任理事国と非常任理事国の投票力をそれぞれ計算してみよう。まず、15カ国が投票する投票順の数は、15の階乗(15!) = 1,307,674,368,000通りとなる。

つぎに、ある常任理事国が投票した時点で、議案が成立する投票順の数を計算してみると、256,657,766,400通りある。この2つの数を割り算すると、19.627%となる。他の常任理事国も同じパワーを持つから、常任理事国全体では、約98.135% (= 19.627% × 5)。非常任理事国は、全部合わせても残りの1.865%のパワーに過ぎない。非常任理事国のうちの1カ国は、さらにその10分の1で、0.1865%となる。つまり、常任理事国は、非常任理事国の

約105倍(= 19.627% ÷ 0.1865%)のパワーを持っていることになる。拒否権には、ものすごいパワーがあることが数字で表されたわけだ。

◇ もし議決方法を変更したら…

それでは、架空の話として、もし常任理事国2カ国の反対がないと拒否権は発動されない、というように拒否権の発動要件を変更した場合はどうなるか。この場合は、常任理事国は1カ国で16.830%、非常任理事国は1カ国で1.5851%となる。常任理事国は非常任理事国の約11倍(= 16.830% ÷ 1.5851%)のパワーを持つ。

また、ある常任理事国が拒否権を発動した場合でも、他の14カ国(他の常任理事国4カ国と非常任理事国10カ国)が賛成することによって、再可決して議案を成立できるよう、議決方法を変更したらどうなるか。この場合は、常任理事国は1カ国で14.865%、非常任理事国は1カ国で2.5674%となる。常任理事国は、非常任理事国の約6倍(= 14.865% ÷ 2.5674%)のパワーを持つようになる。まだ、約6倍もパワーの違いは残るが、現在の約105倍の違いに比べれば、常任理事国と非常任理事国の投票力の格差は、だいぶ縮まることとなる。

今回は、国連安保理の議決を取り上げたが、他の会議の議決でも、この指標を用いて投票力を測ることができる。会議で誰かが拒否権を発動しそうなきには、そのパワーを計算してみるとよいだろう。

[*]計算細部については次をご参照下さい。
・「拒否権のパワー—国連安保理で常任理事国と非常任理事国の投票力格差は?」(研究員の眼, 2022年3月1日)
・「拒否権のパワー [もう一度]—常任理事国と非常任理事国の投票力格差を別の指標でみると…」(研究員の眼, 2022年4月12日)